

平成28年度第7回理事会議事概要

日 時 : 平成28年10月14日(金) 15:30～16:00

場 所 : 森林総合研究所特別会議室

出席者 : 理事長 沢田 治雄

理事(企画・総務・森林保険担当) 桂川 裕樹

理事(研究担当) 田中 浩

理事(育種事業・森林バイオ担当) 渡邊 聡

理事(森林業務担当) 奥田 辰幸

理事(法令遵守担当) 三木 眞

監事 鈴木 直子

監事 平川 泰彦

総括審議役 上野 司郎

総括審議役 大貫 肇

総括審議役 國井 聡

審議役 河野 晃

企画部長 高橋 正通

総務部長 松本 寛喜

1. 開会

2. 議事

(上野総括審議役)

ただいまより、平成28年度第7回理事会を開催いたします。本日は報告事項が5件となっております。順次説明をお願いいたします。

I-1. 研究・育種部門における職員の採用について（研究職・一般職）

(総務部長)

研究職と一般職の今後の採用予定でございます。

まずは研究職でございますが、採用時期は来年の4月と1月に分かれております。区分もテニユア型とパーマネント型に分かれておりまして、採用予定数、今後の予定は資料記載のとおりでございます。こちらの応募は現在締め切っておりまして、現在のところ4月採用のパーマネント6名に対して応募者が22名、テニユアが5名に対して24名、1月採用のパーマネント2名に対して5名という状況になっております。今後書類選考等進めまして採用者を決めたいと思います。

次いで一般職でございますが、こちらは事務系と技術系それぞれ来年の4月に4名募集しております。締め切りは10月31日となっております。この技術系は多摩森林科学園での造園職の人を予定しております。造園関係の技術を持った人の採用は初めての試みです。

I-2. 国立研究開発法人森林総合研究所森林整備センター職員新規採用試験

(平成29年度4月1日付け採用)の最終合格について

(國井総括審議役)

森林整備センターに係る平成29年4月1日付け職員の採用試験でございますが、事務系と技術系を合わせて12名の採用を予定していたところであります。受験応募者数は84名で、このうち一次試験を受験した者が48名、二次試験の受験者数は30名でしたが、最終的に男性2名、女性6名の計8名を採用することといたしました。ただ、合格者数が採用予定者数を下回ることとなりましたので、来年度に中途採用を行うことを検討いたします。

(鈴木監事)

女性の技術職は何名ですか？

(國井総括審議役)

女性については、事務系が2名、技術系が4名の計6名となっております。また、男性については事務系・技術系それぞれ1名ずつとなっております。

I－3．国立研究開発法人森林総合研究所 平成28年度計画変更について (桂川理事)

第192回国会におきまして、平成28年10月11日に第2次補正予算が成立いたしました。研究・育種勘定につきましては「国立研究開発法人森林総合研究所災害復旧事業」、水源林勘定につきましては「水源林造成事業」のための予算措置がなされたところであります。これを受けまして農林水産省大臣から同日付で「国立研究開発法人森林総合研究所施設整備補助金」及び「水源林造成事業費補助」の割当内示がございまして、国からの財源措置との整合を図るため、森林総合研究所の年度計画の変更を行う必要がございました。このため同日付で年度計画の変更を行いまして同日付で農林水産大臣あて届け出たものでございます。

資料の新旧対照表でご説明いたします。左側が変わったところは赤字で書いてあります。まず予算、研究開発業務の収入のところ支出のところそれぞれ金額が増えております、ここのところの施設整備補助金が215百万円から1,265百万円、1,050百万円増加しております。1,050百万円というのは先の熊本の地震で被災をした九州支所の建物の建替えあるいは施設の整備等についての補助でございます。支所の建物のすべての建替えということではなく、被災の大きかった特殊実験棟の建替えを行うことになっております。次の5ページ目でございますが、こちらは水源林造成事業等で国庫補助金が14,643百万から19,144百万円ということで4,501百万円増えているということであります。それに伴い事業支出の方も増えているという状況であります。

6ページも資金計画のところが変わっておりますが、先ほどの予算が動いたことに伴って異動するものであります。研究・育種、水源林勘定とも同様であります。

7ページ、こちらは表の一部が変わっておりますが、第8のその他農林水産省令で定める業務運営に関する事項等の中に施設及び整備に関する事項というのがありまして、その中に施設及び整備に関する計画というのがあります、先ほど説明しました熊本地震で被災した施設整備等の復旧ということで1,050百万円、このところが書き変わっております。

8ページ以降は今申し上げたことを織り込んで書き込まれた計画でございます。

I－4．台風被害に係る森林保険の対応について (大貫総括審議役)

今回の台風被害に係る森林保険の対応についてということでございますが、平成28年8月、9月に襲来した台風第7号、第11号、第9号、第10号及び第16号により大きな被害が発生したことを受け、林野庁長官より当研究所理事長あてに、迅速な保険金支払いを依頼内容とする「台風被害に係る森林保険の対応について」が10月6日付けで通知されたところであります。

依頼内容は、森林保険制度が林業経営の安定及び被災地の再造林を図ることを目的としていることに鑑み、関係機関と連携した被災状況の把握や、被害に係る保険金支

払請求があった場合の早期査定などによる保険金の迅速な支払いに配慮することというところでございます。

対応状況でございますが、森林保険センター所長名で損害填補事務委託先に対し、損害調査等の迅速な対応に努めるよう文書を発出するとともに、センター内での査定事務の迅速化により保険金の早期支払いを図ることとして参りたいと考えております。この委託先に対しての通知は10月11日にすでに発出しております。

今回の台風被害は非常に大きな災害でございまして、北海道とか東北の方でかなりの被害が出ているというようなことで情報が来ておりますが、現地ではまだ林道が寸断されていることなどもあり、調査にも行けないような状況で、具体的な内容、件数につきましては、これからというような状況であります。

保険金を早期に支払うということが最大の保険契約者に対するサービスであることを肝に銘じまして取り組んで参りたいと思っております。

参考資料は、平成27年度都道府県別損害発生件数でございます。27年度は熊本、鹿児島で非常に多かったわけでございますが、今年も熊本、鹿児島で被害が発生したということでございます。

(沢田理事長)

27年度分に関してもまだ残っているのですか。

(大貫総括審議役)

かなり終わってきており、鹿児島などは順調に終わってきています。ただし熊本は地震被害などがあり遅れていることは否めない状況です。熊本県森連の方には県森連一丸となって対応していただくよう要請を行うとともに、当方においても申請事務の簡素化などを行い、早期支払いに向けてできる取組を行ってきているところです。

(沢田理事長)

おおよそいつ頃終わりそうですか。

(大貫総括審議役)

今年度いっぱい、かかりそうなそんな感触をもっております。本来であれば損害発生通知を受理してから3ヶ月以内を目処として実査を行い、速やかに保険金をお支払いするよう取り組んでいきたいと考えておりますが、今回は件数が多かったこと、或いは林道が寸断されたり、その後、地震や集中豪雨あったことなどから遅れております。いずれにしても早期支払いに向けてさらに取組を進めて参りたいと考えております。

I－5．環境報告書2016について

(松本総務部長)

これは例年この時期に発行しているものでございます。目的は、所外の方々に分かりやすく当所の取組を説明するためのものでございます。対象の範囲は、本所以下各セン

ター、整備局まで含んでおります。時期は平成27年度、対象分野ですけれども目次に大きな項目が記載されております。研究所の紹介の後に研究・事業等の推進、そして環境への取組ですが、こちらがメインでございます。そしてその後に環境にかかわる研究・事業の成果、そして社会貢献活動への取組と監事意見書とこのような構成となっております。

2ページに理事長のご挨拶、3ページは研究所の紹介でございます、そして4ページが組織、5ページから研究・事業等の推進になります。

(高橋企画部長)

研究・事業等の推進について、中期計画の重点課題に沿ってそれぞれから主要な研究成果をここでご紹介しております。重点課題A、Bという林業に関係する研究課題の中から昨年度の主要な成果を紹介しております。C、Dでは木材に関してはリグニン成分利用等の成果、E、F、Gでは多面的機能や生物多様性関係の成果、H、Iは育種センターの新品種等の開発にかかる研究成果、Oで遺伝資源の保存等につきましたの成果を、それぞれ写真と共に紹介しております。10ページ目は森林保険業務及び水源林造成事業について紹介しております。

(松本総務部長)

続いて11ページ目でございますが、こちらは森林総合研究所環境配慮基本方針でございます、この本文自体は当所のホームページにも掲載しております。具体的な内容は次の12ページでございます。中長期計画における環境目標と実施計画ということで、大きく5つの項目、地球温暖化対策、省資源、循環型社会形成・廃棄物対策、化学物質管理対策、木材利用促進の5項目を掲げております。木材利用促進につきましては今年度から新たに追加いたしました。内容はバイオマスエネルギー及び木材の利用促進でございます。

13ページ目が27年度の達成状況でございます。達成度のところをご覧頂きますと残念ながら△が二つあります。1つ目が廃棄物の削減につきまして、24年度以降年々増加しております。増加した要因は実験施設の改修に伴う大型実験機器の撤去、実験済み試験材の整理、不用薬品等の処理に伴う廃棄物の増加等ございまして、実数が増えています。今度の計画ではこうした実態も踏まえ、平成28年度の目標につきましては平成25年度比で3%削減としております。

13ページでもう一つ△がつきましたのがグリーン購入でございます。100%の目標ということで掲げておりますが、いくつかの物品について達成していないものがございます、例えばトナーカートリッジにつきまして納品したプリンターに合うものが環境性能を満たしていないなどがございまして、やむを得ずそれ以外の物を調達したというのがございました。

15ページ目にそれぞれの実施状況を記載しております。表の上から4段目、水質汚濁防止につきまして、平成27年度のつくば市の立入検査の結果、水質汚濁防止法に基づく特定施設の設置等に係る届出義務等の違反が確認されました。つくば市からの指導を受け、改善計画を今年の3月に提出致しましてそれに基づき今年度は対応を進めてい

るところでございます。

(上野総括審議役)

本日の報告事項は以上でございます。

これで平成２８年度第７回理事会を終了いたします。

次回の平成２８年度第８回理事会は１１月１１日（金）に開催予定です。

３．閉会